

リージョンの結合

TNT 製品において、リージョンは対象の地理的領域の輪郭を描く簡素な図形オブジェクトです。リージョンは様々な TNT 処理で使用され、表示や処理すべき空間データ領域を定義します。空間オブジェクトからリージョンを作成するに は多くの方法があります。選択したポリゴンの組み合わせ、選択した要素のバッファゾーン、ラスタセル値の範囲など、 様々な空間オブジェクトから作成できます (チュートリアル「リージョンの使用」参照)。

表示中の空間オブジェクトから作成したリージョンは、〈ジオツールボックス〉ウィンドウの [リージョン] タブパネ ルに並びます(右図参照)。このパネルにあるツリー構造のリストには、表示画面上のグループやレイヤの項目が自動的 に含まれます (空間的範囲の輪郭を描くリージョンに相当します)。図形オブジェクト (ベクタ、シェイプ、CAD)の要素 を選択している場合、リストにはアクティブ(最後に選択した)要素と選択した要素群の項目も含まれます(テクニカル ガイド「ジオツールボックス:グループ、レイヤ、表示範囲からのリージョンの生成」「ジオツールボックス:アクティ ブ/選択要素を使用した計測、スケッチ、プロファイルの生成」参照)。他の方法により手動で作成したリージョンや保 存済みのリージョンオブジェクトから開いた場合は、「ユーザが追加した (User-Defined)」という見出しの下に表示され ます。

リストに1つ以上のリージョンがある場合、並んだリージョンから論理結合を行うこ とで新たなリージョンを作成することが出来ます。利用できる操作として、[ユニオン (Union)](論理 OR)、[インターセクト (Intersect)](論理 AND)、[排他的ユニオン (Exclusive Union)](XOR, 排他的論理和)、[引く (Subtract)] があり、それぞれの例が下の図に示され ています。[リージョン]パネルの左側にある該当のアイコンを押すこと リージョンの で結合操作を選択できます。結合操作を選ぶと、リストの各リージョン 結合操作 項目の左にチェックボックスが表示されます。処理を行いたいリージョ ユニオン ンのチェックボックスをオンにして、[組み合わせ(演算)]アイコンを押 インターセクト 排他的ユニオン すことで新しいリージョンを生成します。[排他的ユニオン (XOR)] と [引 引く く] 操作では、一度にリージョンを2つだけ組み合わせできます。一方、 [ユニオン]と[インターセクト]は、入力リージョンを2つ以上選ぶこ



6

0

引く:

選択ポリゴン - 集水域

とが出来ます。[引く]操 作では、リージョンを選ん だ順番により結果が異なり ます。2番目に選んだリー ジョンが、最初に選んだリー ジョンから引き算されます。 結合操作によって作成され た各リージョンも自動的に [リージョン]リストに表示 されます。リストにあるリー ジョンは、[保存]アイコン を使っていつでも保存する ことが出来ます。

インターセクト





排他的ユニオン

引く:

集水域 - 選択ポリ